

地球温暖化や人口増加などで、水資源の確保が世界的な課題に浮上している。7月の主要国首脳会議（洞爺湖サミット）でも水問題が議題に取り上げられる。環境と経済、二つのエコの両立を目指す「エコ・エコノミー」第2部は、急速に膨張する世界のウォータービジネスの波頭を追う。（関連記事13面に）

# 世界で水危機 日本出動

「電機・電子企業などの工場が集まる中国江蘇省蘇州市新区。この一角で旭化成ケミカルズ（東京・千代田）が工場排水のリサイクル代行サービスに乗り出す。プリント配線基板工場が出る一日約千七百トンの排水を工場仕様の「高級工業用水」に仕上げて顧客企業に提供する。プラントは来年一月に動く予定だ。

「ねない」と国連アドバイザーも務めるクローバルウォーター・ジャパン（千葉・葉原習志野市）の吉村和就代表は警告する。深刻さが増すほど「日本製の過膜の需要が高まっていく」（丸紅）。

中国は今や膜技術のシヨールームだ。米ダウ・ケミカルは逆浸透膜は北東京三方所の排水再利用施設に採用された。日東電

## ハイテク浄化で救援

### 市場拡大、25年に120兆円も

世界でも珍しい新サービスで使うのが、旭化成の作った高性能な過膜。旭化成ケミカルズの浜口正夫・水フロンティア推進部長は「水に対する当局の監視の目が厳しくなってきた」と話す。

水不足が深刻な中国北部では工業用水の価格は高い。ハイテク工場では公共用水をそのままでは使わず、イオン交換樹脂などを使って追加処理する

「エモ」「海水淡水化プロジェクトと化学工場を中心に取り組んでいる」（上海現法の後藤勝久取締役）。東レの逆浸透膜は五輪競技会場「水立方」英語名ウォーターキューブ」に採用された。水立方では、

「オルガノを突き放せ」。液晶パネル洗浄などに使う超純水は東京ドーム規模の体積の中に砂糖一個程度の不純物しか含まない。最大手の栗田工業の藤野宏社長の鼻息は荒い。シャープの液

2008年(平成20年)  
**6月3日**  
 火曜日

LY

120-21-4946 <http://www.nikkei.com>

膜の力できれいにしたシヤワーの水を木々のかん水に使う。

水危機は中国だけではなく。アフリカ、南アジアなどで十一億人が今も安全な水に接することができない。国連は二五年に世界人口の半分が水不足に直面すると予測する。「石油、穀物の後に二十一世紀で最後に争うのが水」。丸紅経済研究

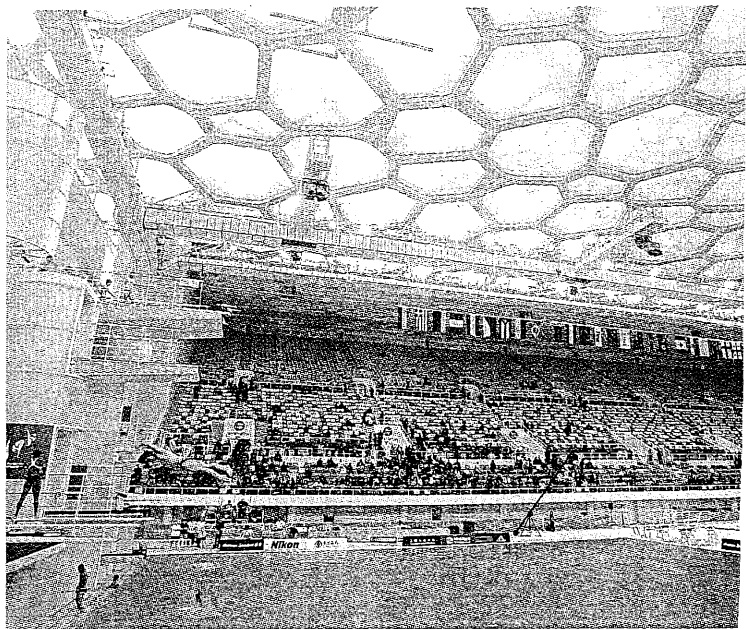
「水処理関連事業の売上高を現在の二・五倍、五百億円に引き上げる。」

「超純水にも注目」

「シンガポールでは今、巨大水利プロジェクトが着々と進行中だ。東京ドーム五十個以上の広さがある湾をせき止め、淡水の貯水池にする。同国は水需要の半分以上を隣国マレーシアからの輸入に頼る。水の自給・自立は、建国以来の悲願だ。海水淡化施設では日本製の逆浸透膜が主役になる見通しで、「我が国の安全保障に対する日本の貢献度は高い」（シンガポール政府関係者）。

戦略物資としての水に改めて全世界が注視する中、日本の「ウォーターパワー」が動き出す。

北京五輪の競泳会場「水立方」でも水処理に東レの膜技術が使われている。AP



る場合も多い。一処理無  
して使えるリサイクル水  
は魅力の「はず」と同社は  
そのばんをはしく。

### 水不足深刻に

中国では環境汚染や水  
不足が深刻だ。昨年、水  
源の太湖でラン藻が異常  
発生し、水道水が飲めな  
くなった無錫市では、水  
質悪化の元凶とされる約  
五百の化学工場を閉鎖し  
た。今年も二百六十九を  
閉鎖する計画だ。上海市  
は昨年夏に汚染物質の排  
出やエネルギー消費が多  
い「問題企業」への電力  
供給を制限し、取り締め  
りを強めている。

●「水問題が同国の経済  
発展の制約要因になりか

で世界シェアの半分以上  
などの日本製で匹敵の世  
界シェアを占める。



無錫市の水源、太湖ではラン藻が発生している(4  
月、浙江省湖州) AP

# 日経産業新聞

NIKKEI BUSINESS DA

tp://www.nikkei.co.jp/

■日経産業新聞ホームページ <http://ss.nikkei.co.jp/ss/>

■購読のお申し込み

